



②について（単価一覧表を以下のとおり訂正）

正	単価一覧表				
	名 称	単 位	適用年版	単 価	摘 要
	鉄 7mm×15mm×80mm	本	T0805		神奈川県土木工事 資材等単価表参照
	ガソリンレギュラー スタンド渡し	L	T0805		神奈川県土木工事 資材等単価表参照
	ライトバン1500cc 運転1時間当り	時間	T0805		神奈川県土木工事 資材等単価表参照
	ライトバン1500cc 供用1日当り	日	T0805		神奈川県土木工事 資材等単価表参照
誤	単価一覧表				
	名 称	単 位	適用年版	単 価	摘 要
	鉄 7mm×15mm×80mm	本	T0804	50	部独自
	ガソリンレギュラー スタンド渡し	L	T0804	141	部独自
	ライトバン1500cc 運転1時間当り	時間	T0804	193	部独自
	ライトバン1500cc 供用1日当り	日	T0804	1,060	部独自

そ の 他

- この訂正による設計金額（予定価格）及び最低制限価格に変更はありません。

【 お問い合わせ先 】 横須賀市財務部契約課  
 電 話：046 - 822 - 9791  
 F A X：046 - 828 - 3839  
 E-mail：[co-fi@city.yokosuka.kanagawa.jp](mailto:co-fi@city.yokosuka.kanagawa.jp)

### 各工程の諸条件表

条件係数	諸条件	工程分類						
		FR	E	FI	FII-1	G	H	
普通 $\alpha$ 係数	傾斜区分	-	-	平坦地		-	-	
	$\alpha$ E増加特例	-	-	-	-	-	-	
	$\alpha$ FI、 $\alpha$ FII-1 の増加特例	段階工係数	-	-	-	-	-	-
		防風林係数	-	-	-	-	-	-
		崩土係数	-	-	-	-	-	-
	建物密集度係数	-	-	建ぺい率60% 容積率200%		-	-	
$\beta$ 係数	視通障害区分	-	-	市街II		-	-	
$\gamma$ 係数	作業	-	-	従来法	-	-	-	
	一筆平均面積	-	-	101~150㎡				
	縮尺	-	-	1/500		-	-	
$\delta$ 係数	一筆の形状	-	-	不整形地		-	-	
$\varepsilon$ 係数	精度	-	-	甲1		-	-	
$\Upsilon$ 係数	-	-	-	-	-	-	-	
$\eta$ 係数	地域	市街地乙	-	-	-	-	-	
	地形	平地	-	-	-	-	-	
	縮尺	1/500	-	-	-	-	-	
$\theta$ 係数	地域	市街地乙	-	-	-	-	-	

### 各工程の補正係数

- ① FII-1工程は単価に12%の補正係数を乗じるものとする。
- ② その他の工程は、都市部官民境界基本調査等の既存成果活用による補正は行わない。

### FR工程について

- ① 補正係数(Z)は実施面積当たりで算出するものとする。
- ② 復元測量の変化率は、以下により算出するものとする。  
復元測量= $[1 + \theta]$
- ③ FR工程については、補正係数による歩掛の減は行わない。

### その他

- ① E工程の需用費(材料費)は、計上しない。筆界杭は市が支給する。
- ② FII-1工程の補正係数は、FR工程における作業内容を反映した。
- ③ FII-2工程の需用費(材料費)は、計上しない。原図用紙は、必要に応じて市が支給する。
- ④ G工程の需用費(材料費)は、計上しない。CD-Rは、必要に応じて市が支給する。
- ⑤ 安全費率は「市街II」を適用する。



各工程の諸条件表

条件係数	諸条件	工程分類						
		FR	E	FI	FII-1	G	H	
普通 $\alpha$ 係数	傾斜区分	-		平坦地		-	-	
	$\alpha$ E増加特例	-	-	-	-	-	-	
	$\alpha$ FI、 $\alpha$ FII-1 の増加特例	段階工係数	-	-	-	-	-	-
		防風林係数	-	-	-	-	-	-
		崩土係数	-	-	-	-	-	-
	建物密集度係数	-	-	建ぺい率60% 容積率200%		-	-	
$\beta$ 係数	視通障害区分	-	-	市街II		-	-	
$\gamma$ 係数	作業	-	-	従来法	-	-	-	
	一筆平均面積	-		101~150m <sup>2</sup>				
	縮尺	-	-	1/500		-	-	
$\delta$ 係数	一筆の形状	-		不整形地		-	-	
$\varepsilon$ 係数	精度	-	-	甲1		-	-	
$\Upsilon$ 係数	-	-	-	-	-	-	-	
$\eta$ 係数	地域	市街地乙	-	-	-	-	-	
	地形	平地	-	-	-	-	-	
	縮尺	1/500	-	-	-	-	-	
$\theta$ 係数	地域	市街地乙	-	-	-	-	-	

## 各工程の補正係数

- ① FII-1工程は単価に12%の補正係数を乗じるものとする。
- ② その他の工程は、都市部官民境界基本調査等の既存成果活用による補正は行わない。

## FR工程について

- ① 補正係数(Z)は実施面積当たりで算出するものとする。
- ② 復元測量の変化率は、以下により算出するものとする。  
復元測量= $[1 + \theta]$
- ③ FR工程については、補正係数による歩掛の減は行わない。

## その他

- ① E工程の需用費(材料費)は、計上しない。筆界杭は市が支給する。
- ② FII-1工程の補正係数は、FR工程における作業内容を反映した。
- ③ FII-2工程の連乗計数は、1とする。
- ④ FII-2工程の需用費(材料費)は、計上しない。原図用紙は、市が支給する。
- ⑤ G工程の需用費(材料費)は、計上しない。CD-Rは、市が支給する。
- ⑥ 安全費率は「市街II」を適用する。

